

2026年度 桜の聖母短期大学 入学式 学長式辞

新入生の皆様、ご入学、誠におめでとうございます。

本日ここに、希望に満ちた皆様をお迎えできますことは、教職員一同にとりまして、この上ない喜びであります。これまで皆様を支え、成長を温かく見守ってこられたご家族並びに関係者の皆様のお慶びもひとしおのことと存じます。謹んでお祝い申し上げます。また、ご来賓の皆様におかれましては、ご多用の中、ご臨席を賜り、式に華を添えていただきますことに厚くお礼申し上げます。

さて、皆様が新たな一步を踏み出されたこの春、本学は大きな節目を迎えております。それは、本年度より男女共学となり、新たに男子学生を迎えたことであります。長きにわたり女子教育を担ってきた本学にとりまして、この変化は単なる制度の転換ではなく、学びの場の可能性をさらに広げる、新しい歴史の始まりであります。

本学の建学の精神は、「カトリックの精神に根ざした人間観・世界観に基づく知的・倫理的見識を養い、豊かな心と深い教養をもって、愛と奉仕に生きる良き社会人を育成すること」であります。本学は、長年にわたりこの精神を礎として、一人ひとりのかけがえない命と人格を尊び、他者への思いやりと奉仕の心をもって社会に貢献する人を育ててまいりました。

男女共学という新たな歩みの中にあっても、その根幹が揺らぐことは決してありません。むしろ、多様性の広がりの中で、その精神はさらに豊かに実を結ぶものと確信しております。多様な価値観や背景をもつ学生が共に学び、互いに尊重し合いながら成長していくこと、それは、これからの社会において不可欠な力を育むものであります。皆様一人ひとりが、この新しい学びの環境の中で、互いに切磋琢磨し、豊かな人間性と確かな知性を育てていかれることを、心より期待しております。

この春を迎える直前、世界は大きな感動に包まれました。皆様の記憶にも新しいミラノ・コルティナオリンピック、ミラノ・コルティナパラリンピックでは、多くの感動的な場面が生まれました。氷の上で優雅に演技する姿、雪原を力強く駆け抜ける姿、そして限界に挑み続けるアスリートたちの姿は、私たちに勇気と希望を与えてくれました。

しかし、その価値は勝利の瞬間だけにあるわけではありません。思うような結果が出ず、悔しさに涙する姿や、仲間と支え合いながら再び立ち上がる姿にも、深い意味があります。

さらに、あの華やかな舞台の裏には、長い年月をかけた地道な努力と、何度も挑戦を重ねてきた日々があることを、私たちは忘れてはなりません。

皆様がこれから歩む学生生活もまた同じです。順風満帆な日々ばかりではないでしょう。時には思い悩み、自分の未熟さに向き合わなければならないこともあるはずです。しかし、

その経験こそが、皆様を確かに成長させていきます。どうか失敗を恐れず、挑戦し続けてください。そして、困難に直面したときには、一人で抱え込まず、仲間や教職員を頼ってください。皆様に寄り添い、皆様の成長を支えてくれる人が必ずいるはずです。

本学における学びは、専門的な知識や技術の習得にとどまるものではありません。人としてどのように生きるのかを問い続ける営みでもあります。

皆様が本学での学びを通して、人として大きく成長し、それぞれの人生において輝き、また社会に希望をもたらす存在となることを、心から願っております。

結びに、新入生の皆様のご健康と、皆様の学生生活が実りの多い豊かなものになることを祈念して、入学式の式辞といたします。

2026年4月6日
桜の聖母短期大学
学長 坂本 真一